



国頭村で生まれた赤ちゃんにはウッドスタートとしてリュウキュウマツで作った積み木をプレゼント。生まれた時から木育が始まります。



やんばるの森に棲んでいる生き物たちを描いたジグソーパズル。

五感を刺激する 木のおもちや



お話を伺った国頭村役場経済課の山城修さん



やんばる森のおもちや美術館
沖縄県国頭村辺土名1094-1
0980-50-1022

経済課の山城修さん。村ではほかにも子どもが生まれるとやんばるの木で作った積み木のセットを贈るウッドスタートや、イベントなどにおもちやを持って出張する木育キャラバンなども実施し、木の良さを伝えていきます。やんばるの森の恵みから生まれた手作りのおもちやは子どもたちの木の温もりを伝え、森の未来を育てていきます。

*木を暮らしに取り戻し、子育てや暮らしを豊かにしていく運動。



沖縄の未来を担う
人づくり・モノづくりを紹介します。



リュウキュウマツや、クスノキ、センダン、オキナワウラジロガシなど、やんばるの6種の木から作られたマグネット遊びができる六角積み木。木の感触や、色合い、においなどを比べながら自由に移動させて遊ぶことができます。シンプルな形だからこそ、想像力を働かせ遊びの幅が広がるのだそう。



平成12年の台風で倒れた蔡温松(琉球王朝時代に蔡温の指導によって植えられた)で作られたトンネル(上)と木目の美しい琉球松で作られたヤンバルクイナの卵のプール(左)



入口ロビーの壁に展示されているのは美術館設立の際に東京おもちゃ美術館が全国に呼びかけ一館長になっていただいた方の名前を刻んだヤンバルクイナの積み木。

やんばるの自然と歴史を感じながら 木の温もりを体感する美術館。

[やんばる森のおもちや美術館]

森の自然を守り活かすことを
遊びながら身につける

やんばるに広がる亜熱帯の森はヤンバルクイナやノグチゲラなどの貴重な動物をはじめ、多種多様な動植物が息づく自然の宝庫。また、琉球王朝時代より森林資源を活かして木材や炭を供給する重要な役割を果たし、地域の人は森と共存しながら生活してきました。

やんばる森のおもちや美術館は、暮らしから木が遠ざかりつつある今、持続可能な森林の管理を目指す国頭村が木に触れてその良さを体感してもらおうと、東京おもちゃ美術館の支援を受けて国頭森林公園のなかに作った空間。爽やかな木の香りのする館内には台風で倒れた樹齢300年の蔡温松を利用して作ったトンネルや、ヤンバルクイナの卵と名付けられた木で作った卵を敷き詰めたプール、やんばるの木で作った積み木やパズルなど、さまざまなおもちゃを用意。子どもたちは手触りや香りなどを感じながら自由に遊ぶことができます。

「小さい頃から木に触れていると自然と木の良さがわかってくる。私たちは木育(*)を通して木のファンを増やし、森を大切にすることを育てたいのです」と話してくれたのは国頭村役場